

令和7年度 学校自己評価結果等報告書

学校名（ 豊岡市立豊岡北中学校 ） 校長名（ 戸田 康夫 ）

1 学校教育目標

校訓：誠実
学校教育目標：ふるさと豊岡を愛し、自らを高め、共に学び挑戦する生徒の育成

2 学校教育推進の視点

○安全・安心で規律ある学校
○笑顔と人間愛にあふれた魅力的な学校
○保護者・地域に信頼される学校
○地域の特色を生かし、創意工夫する学校

3 総合的な自己評価

・教職員が組織的に教育活動を遂行し、生徒が安心して生活できる環境づくりを進めてきた。教職員の創意工夫により、学校行事を中心に生徒が満足感を得る教育活動が提供できた。さらに「生徒に寄り添い生徒の事実から学ぶ指導体制」を意識した実践を心がけた。教職員の「生徒の良いところを見つけて積極的に褒める」という姿勢は強まっており、教職員からも積極的に生徒に声を掛ける場面が増えている。 ・生徒の内面理解に努めていると答えている教職員が100%であった。また、92.6%の生徒が「先生はあなたの良いところを認めてくれる」、保護者は「子どもの頑張りや努力を適切に評価している」と85.8%が答えており、一定の成果が認められた。しかし一方では、「学校は子どもを理解し悩みや相談に親身になって対応している」と答えている保護者が82.5%に留まっていることから教職員と保護者の間での認識のズレがあることが課題となる。
--

4 自己評価結果（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

領 域	評 価 の 観 点	評 価 項 目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策
教育課程	・ 確かな学力の育成	5つの継続・実践徹底事項の推進、生徒が主体的に学ぶ授業づくり	B	・ 個に応じた指導や授業形態の工夫、授業のUD化、ICT機器を活用する。
	・ 道德教育	授業時間の確保、研究授業、道徳的实践力の育成	A	・ 兵庫型学習システムの充実と家庭学習の定着を図る指導を行う。
	・ 英語遊び・外国語活動・英語科	「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の総合的な育成	B	・ 地域教材に学ぶための外部講師・地域人材の活用を行う。
	・ 総合的な学習の時間	指導計画に基づいたキャリア教育やふるさと学習の充実	B	・ 生徒の主体性や自立性を高めるため生徒自らが発案できるような環境をつくり、生徒会活動の活性化を一層推進する。
	・ 特別活動	行事や生徒会活動における生徒の主体的活動の場の設定	B	
学校運営	・ 開かれた学校づくり、コミュニティ・スクールの推進	情報発信、保護者・地域との連携、外部講師招聘、オープンスクール	B	・ 学年だより、学校だより、HP等による情報発信とオープンスクールを実施する。
	・ 働き方改革の推進	業務の効率化と定時退勤日、ノ一部活・会議デーの完全実施	B	・ 生徒と関わる時間確保のための意識変革と諸会議の効率化を推進する。
	・ 引継ぎ連携システムの強化	連携シートの有効活用、小中間の授業参観、体験授業	A	・ いじめアンケートやアセス等の諸調査の結果を学級経営に積極的にいかすことで生徒支援につなげていく。
	・ 生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	生徒に寄り添う姿勢での生徒指導、情報共有と協働体制の強化	B	・ 日常の安全点検の強化をするとともに関係機関とのさらなる連携をめざした交通安全、防犯教室等を実施する。
	・ 校内研修の充実	講師招聘による研修、授業研究の実施、評価研修、伝達研修	A	
	・ 危機管理体制の整備	施設安全の管理体制の強化、実効性のあるマニュアルへの見直し	B	
課題教育	・ 非認知能力の向上	達成感や自己有用感を高める指導の工夫	B	・ 教師は常に生徒と共に活動し、最適なタイミングでその事実に基づいた指導や評価を行う。
	・ ふるさと教育	ふるさとを深く知り、愛し、自分の言葉で紹介ができる生徒の育成	B	
	・ コミュニケーション教育	自分の考えを主張し、他者の考えを受容することができる生徒の育成	A	・ ふるさとの人材、施設、環境を活用した教育や体験活動を実施する。
	・ キャリア教育	将来への夢が語れる生徒の育成、キャリアノートを活用	B	・ 社会体験活動による生き方学習の実践やキャリアノートを活用する。
	・ 人権教育	いじめを絶対に許さない校風と思いやりの心の育成	B	・ 人権尊重の理念について、あらゆる教育活動を通して理解を深める。
	・ 特別支援教育	支援を要する生徒への適切な対応、全職員の共通理解のもとでの支援	A	・ 健康で安全な生活の重要性の認識や減災を目指した生活を確立する。
	・ 環境教育	教科、特別活動などでの取組の充実、花壇整備と花や野菜栽培	B	・ 眠育記録表を用いた指導の継続と日常の健康教育を充実する。
	・ 安全教育・防災教育	毎月の安全点検、交通立番、防災訓練、交通安全教室の実施	A	・ 委員会活動との連携し、図書室の利活用はもちろん、家庭と連携した読書習慣の定着をはかる。
	・ 健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	眠育指導の継続、保健だよりの発行、健康相談の充実	A	
	・ 読書活動	朝読書の実施と図書室の整備、家庭読書の推奨	B	

5 自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

・ 生徒、保護者、職員アンケートの項目を変えず、複数回実施して数値等の変化について検証することができているが、「そう思わない」と明確な回答をしている数値を注視した評価も必要と考える。 ・ 学校評価をPDCAサイクルにのせ、改善に努めていることなど学校の誠実な姿勢を感じた。 ・ 保護者アンケートは、各学年別の評価をすればもう少し違う傾向が確認できるのではないか。

6 総合的な外部評価

・ 先生方の日頃の努力や温かな指導、生徒との良好な関係が高く評価されていて保護者としても心強い。生徒が笑顔で学校生活を送っていることは何より大切な成果だと思う。 ・ アンケート結果を見ても学校行事や授業参観をしても先生方の日頃の努力が垣間見え嬉しい。今後も全教職員で温かい声掛けをお願いしたい。 ・ SNSによるいじめ問題などの課題への対応の重要性が示されている。学校が「いじめは絶対に許さない」という明確な姿勢を持ち、道徳教育・特別活動を通して心の教育を進めていることは引き続き進めていただきたい。 ・ 教職員の職場環境が良好であることが評価されている。先生方が安心して働ける環境があつてこそ、子どもたちへのより良い教育につながるものだと思う。
--

自己評価の妥当性

- ・教職員による自己評価だけでなく、保護者アンケートや生徒アンケートの結果を積極的に活用した総合的な評価となっている。
- ・学校運営協議会、PTA運営委員会、学校保健委員会等での意見も評価に反映されている。
- ・保護者アンケートでの意見や来校者の意見や感想については、職員会議において全職員で共有されている。
- ・保護者アンケートの回答率は80%であった。昨年度より10%向上した。評価への一定の信頼性はあるが、さらに回答率を上げる必要性がある。
- 【教育課程】
 - ・生徒の学ぶ意欲（主体性）が高まっているとの回答が80%と前年度比14.3%下降している。学習指導において「5つの継続・実践徹底事項の実践」を100%の教職員が実践している。
 - ・「学力を伸ばすため、きめ細やかな授業を行っているか」について、69.5%の保護者が肯定的に回答している。
 - ・道徳教育に関して、「道徳の時間を要とし豊かな心を育む教育に取り組んでいるか」について100%の教職員が肯定的に捉えている。
- 【学校運営】
 - ・学校の情報発信について満足している保護者は83.1%に達しており、昨年度より11.7%上昇している。
 - ・勤務時間の適正化の推進については80.8%の教職員が肯定的に回答（前年度比11.4%上昇）しているが、業務改善が進んでいない実態がある。
 - ・いじめアンケートの実施や教育相談により生徒に寄り添う生徒指導を推進した結果、生徒から教職員への教育相談が増え、いじめを含むトラブルへの早期対応ができた。
- 【課題教育】
 - ・特別支援教育では「共通理解のもとに交流及び共同学習を適切に実施できているか」について100%の教職員が肯定的に回答。
 - ・「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった」について96.3%の生徒が肯定的に回答している。
 - ・「夢や希望を持っているか」の問いに71%の生徒が肯定的に回答している。
 - ・生徒の読書活動が充実していないと感じている教職員が65.4%、家庭での読書は68.3%の保護者が不十分だと感じている。